

人間の体は隅々まで神経が張り巡らされていますが、長い神経ほど酸素や栄養がいきわたりにくいため、神経障害を起こしやすくなりります。最も長い神経は「座骨神経」で、腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、変形性腰椎症、梨状筋症候群など整形外科的にも問題視されている部分です。長い神経は栄養などがいきわたりにくだけでなく、長いが故に

Vol.179

院長 関 の

Face to Face

2023年5月1日発行

長い神経は障害を受けやすい



例えば硬い骨に挟まれて神経が圧迫されるなど、様々な部分で障害を受けます。また、糖尿病でも坐骨神経は障害されることがあります。高血糖状態が続くと神經細胞が傷害されたり、神神経に栄養を送る血管が傷つき、栄養不足になつたりします。どちらの原因であつたり、虫が這うような感じがしたり、紙を貼り付けた

砂利の上を歩くように足が痺れたり、足や足の指がほてつたり、逆に冷たく感じたり、虫が這うような感じがしたり、紙を貼り付けたような感じがしたりします。整形外科的疾患では、動作時、歩行時、長時間の歩行で症状が増悪し、片側に出ることが多い、糖尿病では、安静時、夜間に症状が出たり、両側に出る場合もあります。当院ではこのことを念頭にカウンセリングを行っています。



関修一（せきしゅういち）

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院・マッサージ院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルの“face to face”は「患者さんの自身と向き合って患者さんの症状と闘う」と願つてつけた

※毎月一日の発行です